

「ものがたり」のはじまり



- 『ちいさなうさこちゃん』
〈子どもがはじめてであう絵本〉
ディック・ブルーナ／ぶん・え 石井 桃子／訳
福音館書店

「あかちゃんがおうまれになっておめでとう」ちいさなうさこちゃんをみにどうぶつたちがやってきました。



- 『こぐまちゃんおはよう』
〈こぐま社の創作絵本〉若山 憲／著 こぐま社
こぐまちゃんは、かおをあらってごはんをたべて、いっぱいあそんでねむります。



- 『きゅうりさんととまとさんとたまごさん』
〈あかちゃんのおいしい本〉
松谷 みよ子／ぶん ひらやま えいぞう／え
童心社

きゅうりさんと、とまとさんと、たまごさんが、くつにのって、みずのなかを、すいすい、ちゃぶちゃぶ。



- 『たまごのあかちゃん』〈幼児絵本シリーズ〉
かんざわとしこ／ぶん やぎゅうげんいちろう／え
福音館書店
にわとり、かめ、へび、ペンギン、きょうりゅうのあかちゃんが、たまごのなかから「こんにちは」とできました。

*どうやって読んだらよいか わからない

たいせつなのは、読む人がその絵本を好きになることです。読む人が「おもしろい」と思うと、自然に読み方やおはなしの仕方がじょうずになってきます。一字一句そのまま読まなくては、と気にする必要ありません。子どもの反応をみながら読みましょう。まずは、絵本をなかだちにして、子どもとたくさんおはなしをしてください。



大阪府立中央図書館では、さわる絵本や点字絵本、外国語の絵本などが利用できます。
(大阪府立中央図書館
<http://www.library.pref.osaka.jp/>)

発行：大阪府子ども読書活動推進連絡協議会
事務局：(財)大阪国際児童文学館

URL <http://www.iiclo.or.jp/>
TEL 06-6876-8800
FAX 06-6876-8686

〒565-0826 吹田市千里万博公園10-6
平成22(2010)年2月

絵本 はじめての 親子が楽しむ

絵本を選ぶために とっておきのアドバイス

あかちゃんには、いろいろなあそびが必要です。声をかけて、からだにふれて、いっしょにおもちゃであそび、そして絵本を見ながらおはなしもする。ここでは絵本をとりあげて、0、1、2歳児のための絵本の選び方や、保護者の方の接し方などを広く解説しました。ご紹介している絵本や説明はあくまでも参考です。一人ひとりのお子さんの興味や反応にあわせて、親子で絵本を楽しんでください。



「せいかつ」



●『きゅっ きゅっ きゅっ』
 〈くつくつ あるけのほん〉
 林 明子／さく 福音館書店
 おいしいスープがこぼれました。
 きゅっきゅっきゅっとういであげます。



●『くらくらい』
 はせがわせつこ／ぶん
 やぎゆうげんいちろう／え 福音館書店
 くらーいなかに、くろいかけ。でんきをつけると、
 ぱっ。ことりのピーちゃんや、かえるのケロッパ、
 いぬのさぶちゃんたちがあらわれます。



●『おはよう』〈あかちゃんのほん〉
 まついのりこ／さく 偕成社
 「おはよう」からはじまって
 ごはんをたべて、いっぱいあそんで
 「おやすみなさい」。

「うた」



●『あかちゃんのうた』
 〈松谷みよ子あかちゃんの本〉
 松谷 みよ子／著 いわさきちひろ／絵 童心社
 「おむつをかえましょう」「うさぎ」など
 あかちゃんにかたりかけるうたがいっぱい。



●『おきて おきて』
 〈ワイルドスミスのちいさなえほん〉
 ブライアン&レベッカ ワイルドスミス／作
 香山 美子／文 フレーベル館
 おんどりがあひるをおこし、あひるはひつじ
 をおこし、ひつじはやぎをおこします。
 さいごはみんなであさごはん。



●『わたしの』
 三浦太郎／作・絵 こぐま社
 ちいさい いす、ちいさい おちゃわん、
 ちいさい はぶらし、ちいさい くつ、
 みんな わたしの。



●『したく』〈あかちゃんのえほん〉
 ヘレン・オクセンバリー／作 文化出版局
 シャツをきて、くつしたをはいて、うわぎを
 きて、おでかけのしたくができました。



●『どうよう (ぞうさん)』
 〈あかちゃんのためのえほん〉
 いもと ようこ／絵 講談社
 「ぞうさん」「ちょうちょう」「どんぐりこ
 ろころ」など、よく知っているどうようにな
 きよくもついています。

親子で絵本を
楽しめるのはいつ？



生後4ヶ月くらいからすこしずつ楽
 しめます。あかちゃんとのふれあいに
 絵本でおはなしをしてみてください。
 じっとみつめてくるでしょう。
 絵本を見ながら話しかけ、あかちゃん
 とのひとときを楽しみませんか？

絵本には
どんな特徴があるの？



絵本の絵は実物そのものではありませんが、絵を見ながら「リンゴよ」
 などとことばがかけられると、あか
 ちゃんは実際のリンゴを想いおこし
 ます。想像力を育てるのに、絵本が
 ひとつの助けになってくれます。

子どもは絵本のどこを楽しむの？

1 モノ・場面と絵・ことばを
結びつける



最初は、スプーン、コップなど、知っ
 ているモノを絵の中にみつけて喜
 びます。すこしことばが話せるよう
 になるとそのモノの名前を言ったり、
 実物を持ってきて「おんなじ」とい
 うように、みくらべたりもします。

2 自分であつかう



はじめのうちはペロペロなめたりか
 じったり、やがてページをめくる、と
 いうことを覚えます。絵を見てことば
 を聞きながら、自分なりにいろいろと
 絵本をあつかって喜びます。

「どうぶつ」



●『ねんね』

さえぐさひろこ／文 細川佳／デザイン
アリス館

キツネ、ライオン、ゴリラ、シロクマ、
コアラなど、いろいろなどぶつたちが、
きもちよさそうにねむっています。



●『もう おきるかな』

まつの まさこ／ぶん やぶうち まさゆき／え
福音館書店

どうぶつの子もたちが、つぎつぎに
めをさまし、おきあがります。



●『おかあさんとこども』

〈じぶんでひらく絵本1〉
H・Aレイ／作 石竹光江／訳
文化出版局

うま、めんどり、うし、ぶた、ねこなど、
つぎつぎとどうぶつのおかあさんがでできます。
こどもたちはどこかな？
おりこみをひらくと、こどもたちがあらわれます。



「のりもの」



●『ずかん・じどうしゃ』〈福音館の幼児絵本〉

山本 忠敬／さく 福音館書店

スポーツカー、トラック、バス、はしごしゃ
パトロールカー、いろいろなるまが
せいぞろい。



●『のせて のせて』〈松谷みよ子あかちゃんの本〉

松谷 みよ子／文 東光寺 啓／絵 童心社

まこちゃんのじどうしゃに、くま、うさぎ
ねずみがつぎつぎにのります。
みんなでどこに行くのかな？



●『がたんとん がたんとん』

〈福音館あかちゃんのえほん〉
安西 水丸／さく 福音館書店

「のせてくださーい」とコップやスプーン
リンゴやバナナ、ネコにネズミも
やってきました。



3 おとなといっしょの時間が 楽しい

子どもにとって、絵本をなかだちにして自分だけの相手してもらえるのもうれしいことです。おとなの声かけに、「オッ」とか「ウッ」などと、からだで反応してくるでしょう。おとなはことばを使い、子どもは声や表情・からだを使って心を通わせる、これが絵本の魅力のひとつです。

どんな絵本を選ぶか？

1 内容と題材



子どもの身近なモノや、食べる・寝る・顔をあらう・あそぶ・着替えるなどの動作、おでかけ・おきゃくさま・びょうきなどの身近なできごとがとりあげられていると、よくわかるので喜びます。

2 表現

なるべく実物に近い形で、子どもがふだみなれた角度から、全体がわかるように描かれているとよいでしょう。
ただ、あまりに簡略化されたり、または細かすぎる絵では、特徴がとらえられません。

「文章」

あかちゃん対象の絵本は、文章のないものも多いのですが、文章がある場合は、子どもがまねしやすく、おとなが声に出して読みやすい、リズムカルなことばや文章がよいでしょう。



「たべもの」



●『にんじん』〈いやだいやだの絵本〉
せな けいこ／さく・え 福音館書店
「にんじんの すきなこ だあれ」うまやきりん
うさぎ、ぞうも、みんなやってきました。



●『くだもの』〈福音館の幼児絵本〉
平山 和子／さく 福音館書店
すいかをきって「さあどうぞ」
もものかわをむいて「さあどうぞ」。



●『りんご』〈母と子のえほん〉
松野 正子／ぶん 鎌田 暢子／え 童心社
あか、きいろ、ピンクのまあるいりんごを
むいて、きって、たべて「ああ おいしい」。

「あそび」



●『いないいないばあ』
〈松谷みよ子あかちゃんの本〉
松谷 みよ子／文 瀬川 康男／絵 童心社
ねこ、くま、ねずみ、のんちゃんもみんな、
「いないいないばあ」をしてあそびます。

「いろ・かたち・おと」



●『ころころころ』〈幼児絵本シリーズ〉
元永 定正／さく 福音館書店
ちいさなたまが、ころころころころがります。
かいだんをころころ、でこぼこみちをころころ。



●『なにいろ?』
〈くもんのはじめてのえほん②〉
本信 公久／作 くもん出版
あかいトマト、あおいふうせん
きいろいちょうちょなど
ぜんぶで 10 のいろがせいぞろい。



●『じゃあじゃあ びりびり』
〈まついのりこあかちゃんえほん〉
まつい のりこ／作・絵 偕成社
じどうしゃはぶーぶー、みずはじゃあじゃあ、
かみはびりびり。いろいろなおとがきこえて
きます。



●『おててばちばち』
〈あまんきみこのあかちゃんえほん〉
上野 紀子／え あまん きみこ／さく ポプラ社
ねずみさん、うさぎくん、きつねちゃん、
くまさん、あつくんもいっしょに
おててばちばち。じょうずにできた。

3 本の造り

「扱っちゃくれ」

子どもが扱いやすい大きさや重さであることも楽しめる要素です。まず、幼い子どもが持ったり抱えたりしやすい大きさで、めくるのにつまみやすい厚さ、軽めの造り、ひっぱっても簡単にはやぶれない用紙がよいでしょう。本は何度も開閉するので、綴じの部分がしっかりしていることも必要です。

「安全性」

本を投げたり、ふりまわしたりして、本のカドを自分自身にぶつけてケガをすることもあります。用紙が薄くて手を切ることもあります。厚手の用紙、または布のように柔らかい用紙で、本のカドが丸く、汚れがふきとれるようにコーティングがしていると安心です。



こんなときはどうしたらいい?

＊読んでも反応がない

特別な興味がない限り、すぐに反応がないときもあります。あわてずゆっくり読みましょう。聞いていないようでも心にしみこんでいることもあります。いっしょに絵本を楽しみましょう。



＊本を口に入れたり、ビリビリやぶる

おとなの本の持ちかたをみならって、だんだん本らしくあつかえるようになります。子どもの様子にあわせて、口に入れたりやぶったりしてはいけないことをやさしく教えましょう。

